

T.K.さん

学校名： Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM:メキシコ国立自治大学) 附属語学学校
Centro de Enseñanza para Extranjeros (CEPE: 外国人教育センター) 及び El Colegio de México
(COLMEX:メキシコ大学院大学)

専攻：歴史学

課程：Investigador Visitante (客員研究員) / 交換留学

留学期間：2006年8月～2007年7月

留学の動機

- メキシコという国 -

人口が日本とほぼ同じなのに、国土の面積が 5 倍というこの国は、ヒゲが自慢の陽気なおじさんが、つばの広い帽子をかぶり、サボテンの下でテキーラを飲みながら、ビリ辛タコスに舌鼓を打つといった姿や、超科学というオカルトで味付けされた神秘的な古代文明を想起させるという、およそ私たちの日常生活には関わりのない遠い国のように思えます。ところが、日本のすぐ近くにあるフィリピンが、かつてメキシコから来たスペイン系の人々によって開発され、そのフィリピンを通して流入するメキシコ産の銀が、中国や他のアジアの経済発展に大きな影響を与え、江戸幕府の「鎖国」政策にも影響を与えたかもしれない…学部生の時に学んだ、そのような「銀」の流れを通して見える経済史のダイナミズムに魅了されて、メキシコと、フィリピンを結ぶ太平洋貿易のことをもっと知りたいと思うようになり、卒論のテーマとしてメキシコと太平洋を取り上げました。しかし、日本で手に入る資料が限られていること、何より、自分の研究している国がどんなところで、どんな人々が住んでいるのか、自分の目で見てその空気を肌で感じたいと思い、留学を決意しました。留学を決意する直接のきっかけになったのは、「日墨研修生・学生等交流計画」という交換留学プログラムを先輩に紹介されたことでした。とにかく、チャンスがあれば挑戦してみろと背中を押されて、応募してみました。

留学した国や学校を選んだ理由と留学前の準備についてこれから留学する人に伝えたいこと

事前の情報収集が難しい

当初、スペイン語初級者だった私は、メキシコ国立自治大学 (UNAM) の附属語学学校 (CEPE) に通うよう指示されました。しかし上述の通り、私は歴史の研究がしたかったので、スペイン語を学びながら同大学の哲文学部の講義を聴講することにしました。ところが、1 ヶ月くらい経つと物足りなさを感じるようになりました。哲文学部には、自分が指導を仰ぎたい分野を専門とする教授がいなかったこと、そして、スペイン語の学習に留まらず、研究も本格的に始めたいと思ったことが主な理由です。(1 ヶ月もすれば日常生活に不自由しないだけの語学力はつきました。) それで、メキシコに行ってからできた人脈をもとに、メキシコ大学院大学 (El Colegio de México) の先生と連絡をとり、自分がどんな研究をしたいのか、そのために何が必要なのか、などの手紙を書いて、指導教官を探し当て、転校しました。メキシコ大学院大学は博士課程しかない大学ですが、施設が充実しているほか、研究に必要な環境が整っていることや、経済史の専門家がいることが、転校を決めた大きな要因でした。

上記のように、私の場合は最初は右も左も分からなかったもので、日本にいる間に殆ど何も準備をしていませんでした。過去の留学経験者に質問したり、大学のホームページを調べたりもしましたが、研究テーマを同じくする先輩がいませんでしたので、苦労しましたし、メキシコへ行ってから転校するといった時間のロスを経験しました。実は私以外にも、日本で予想していたこととメキシコでの現実が違って悩んでいた人が多くいました。これから留学される方は、直接指導を仰ぎたい教授にメールにしてみるなど、大変でも事前の準備をして、無駄のない留学生活を送って欲しいものです。もし希望していたことと違うことが現地で分かったら、状況を変えられるよう果敢に行動してみましょう。

学校での授業や学生生活の紹介、また日常生活についての紹介

留学の前半半年間はメキシコ国立自治大学(UNAM)の付属語学学校(CEPE)に通っていました。ここでは、色々な国籍の人と交わることができ、非常に楽しい時間を過ごしました。ただ、授業に関しては、スペイン語を母国語とする先生(メキシコ人とは限らない)がスペイン語を教えてくれるのですが、彼らには当たり前だけれども外国人には理解できない類の文法の質問(例えば日本語なら、「～は」と「～が」をどう使い分けるのか、という質問)をすると、「テストには出さないから気にするな」の一言で片付けられてしまうこともありました。

メキシコの文化を学ぶクラスでは、博物館に行って専門的な解説を聞いたり、メキシコ特有の、カトリックの信仰形態を学べたりと、刺激的なものでした。

留学期間の後半は、メキシコ大学院大学(El Colegio de México)に籍を置きながら、自分の研究に没頭しました。大学図書館で関連文献を片っ端から読み漁ったり、国立公文書館(Archivo General de la Nacion de México)に籠って一日中古文書と格闘したりしていました。大学院の研究に求められるのは主体性ですから、誰かから「これをしろ」という指示を受けることがない代わりに、受け身では何も出来ないまま無駄な時間を過ごすこととなります。特に私の場合、客員研究員(Investigador Visitante)の肩書きで在籍していたので、正規の学生のように授業を受けることが出来ませんでした。そのため、全て自分で計画して研究し、指導教官にアドバイスをもらうという形を取りました。

日常生活についてですが、メキシコは、食事のリズムが日本と違います。私のホームステイ先の家庭では、早朝 6 時くらいに軽いもの(ミックスジュース一杯やシリアル)をつまみ、11 時頃に遅い朝食、14 時～15 時くらいに、昼食として一日の中で一番重い食事を家族そろって食べ、夜は 21 時くらいに軽くサンドウィッチをつまむか、場合によっては何も食べない、といったものでした。特に語学学校に通っていた留学前半はホームステイ先の家族と行動を共にしていましたので、慣れるまではこのリズムに合わせるのが大変でした。

留学後の進路について

学究の道を選ぶ

留学後は、メキシコで集めてきた史料を基に修士論文を書き上げ、現在は博士後期課程に進学して、歴史学者になるべく研鑽を積んでいます。史料だけでなく、メキシコで培った人脈や、スペイン語力、異なる価値観に接した経験など、留学が今の自分に与えた影響は、研究に大いに役立っています。

メキシコの魅力と後輩へのアドバイス

違いを超えて共有できるもの

メキシコは、色々な点で日本と違うところが沢山ある国です。私が特に吃驚したのが、価値観の相違でした。面と向かって、「日本人はどうしてそんなに時間を守るのか分からない。時間よりも大切なものがあるでしょう」と言われたときには、何と応えていいかわからなくなりました。(もちろん、メキシコでも時間厳守は重要です。)こうした価値観の相違を、「面白い!!!」と受けとれるようになれば、メキシコはとても魅力的で楽しい国になります。

また、入国当初はどうしても「違い」ばかりに目がいくものですが、同じところもいっぱいあります。友情や恋、心に響く音楽や映画、思いやりや謙遜・遠慮の精神、怒り・嫉妬など。ただ、その表現の仕方が少し違うだけです。これほど外見や文化が違うもの同士が、心の根底で分かりあえることには、喜びを通り越して、一種の感動をさえ覚えます。是非、その感動を味わってください。